

雅叙園 88年

時は、昭和の初め。
戦争や貧困などが
暗い影を落とす中、

一般大衆に束の間でも

「お大尽気分」を――。

そうして出現したのは、

壁も、天井も、廊下も

美術品で埋め尽くされた

絢爛豪華な異空間。

訪れた人々は

言いました。

まるで

「竜宮城」のようだと。



竜宮城も 目黒にかぎる。



現在の玄関

旧玄関

流れた時間

2016年で創業88年を数える長い歴史の中で、様々なその形を変えてきた目黒雅叙園。最盛期には廊下だけで数100m、延坪8000余坪、部屋数200余室にも及びました。この広大な敷地と、たくさんの部屋の集まった昭和の「竜宮城」にはまた、多くの時間も流れ、人々の記憶や思いが宿っています。

昭和15年頃の
目黒雅叙園
目黒川と、
行人坂を上って
いく小高い丘。
現在もその勾配
に面影を残す。



平成3年頃の
目黒雅叙園(空撮)
アルコタワーが象徴的に
目黒の街にそびえ立つ。



昭和55年頃の
目黒雅叙園
(空撮)
宅地化著しい
一帯で、雅叙園の
緑が目立っている。



過去も現在も、 めぐろの竜宮城。

絵にも描けない美しさ――。おとぎ話の中で、浦島太郎が夢のような時を過ごした竜宮城。それはきっと、こんな様子だったに違いない！

昭和の時代、人々にそんな感慨を抱かせた場所がありました。それが、目黒雅叙園。現代でも目黒の代名詞的スポットですが、「名前は知ってるけど、どんな所？」という人も案外多い様子。

結婚式場？ ホテル？ 料亭？ どれも正解ではありませんが……ではさっそく、謎多き「めぐろの竜宮城」へご案内しましょう。

「あこがれの、
「雅叙園拳式」



「雅叙園のお料理」



「雅叙園でのイベント」





和室宴会場入口

かつて目黒雅叙園を訪れた人を最初に驚かせたのが、本館の玄関。一日大名気分で過ごしてほしいとの願いから、天井や壁の絵は江戸時代の将軍や大名がモチーフ。この玄関の構成が現在4階和室宴会場入口にそのまま移設されています。

「竜宮城」の記憶

現在も残る
「竜宮城」の記憶の断片を
みつけることができる
かもしれません。
そこに「竜宮城」の記憶の断片を
みつけることが
できるかもしれませ
ん。
雅叙園に訪れた人々を
さりげなく
楽しませている
意匠や装飾。
そこに「竜宮城」

現在5階にある挙式場「大日殿」は、旧目黒雅叙園の神殿を忠実に復元。神の使い、鹿や鶴などが描かれた彩色木彫板、縁起の良い扇画などに囲まれ、厳かな神前式が行われます。



神殿



南風階段

堅山南風の絵が飾られた南風階段は、旧建物の大階段がそのまま残されたもの。現在はドレスギャラリーへの通路となっているため、目黒雅叙園で結婚式を挙げる人のみが通れます。

アトリウムガーデン内にある日本料理「渡風亭」の個室「竹坡の間」を包む荘厳な螺鈿は、旧長門の間で使われたものを修復。また秀畝の間は同名の旧室から天井・欄間画が移設されています。



「渡風亭」秀畝の間



化粧室

アトリウムガーデン中央にある化粧室は現在でも目黒雅叙園の人気スポット。入口の美人画や天井画、鮮やかな朱塗りの橋など豪華な造りは、旧目黒雅叙園の化粧室を再現したもの。往時も化粧室は雅叙園の名所でした。

雅叙園伝説

実は雅叙園にはこんなエピソードが！

1 初の総合結婚式場

総合結婚式場スタイルを日本で初めて導入したのも、目黒雅叙園。開園当初から披露宴会場として利用されることが多く、雨や雪の日など挙式後ここまでくるのは大変だろうという創業者の優しさやアイデアから実現。出雲大社から御霊を迎え、直営の写真場や美容室も設け、すべて園内で行えるようにしたのは昭和13年のこと。

2 雅叙園の大浴場!?

かつて目黒雅叙園には料亭の他に浴場もありました。当然その造りは雅叙園らしく、浴槽も洗い場も脱衣場も相当な華やかさ。お風呂に入って美味しいものを食べて一日のんびり……今で言う健康ランドの豪華版といった場所だったのでしょね。

3 中国料理店の回転テーブルはここから始まった。

円卓上の料理を座ったまま取り分けられる回転テーブル。実はこれ、雅叙園の創業者が考案。これが中国に伝わったという。

4 喜劇王チャップリン目黒雅叙園に現る!

親日家としてたびたび日本を訪れた伝説の喜劇王チャップリンは、天ぷらが好物。昭和7年6月2日付の東京朝日新聞に、訪日最後の日に警視庁を訪問し滞京中の好意を謝した後、7時に目黒の雅叙園で天ぷらを食べ……といった記事が掲載されました。



5 南米木材を多用している!

アカパラ、パウ、アマレロ、パープルハート……多種多様な珍しい南米産の高級木材が多く使われているのも目黒雅叙園の特徴。どうやって入手したのか？当時、鐘淵紡績(後のカネボウ)が南米から船で綿花を輸入する際、船を安定させるため重しとして南米の木材を積載しました。輸送が終われば不要になるので、それをまとめて購入したということです。



現・南風の間

6 コンドルの建築発見される。

「鹿鳴館」、「島津忠重邸(現、清泉女子大学)」などで知られるジョサイア・コンドルが手がけた建築が、目黒雅叙園に存在する事が平成10年に判明しました。現在、中国料理「旬遊紀」の個室として利用されている「南風」と「玉城」です。



1 正面玄関



2 旅館玄関



3 鷺の間



4 竹林の間



5 弥生の間



百人風呂



昭和の竜宮城と 呼ばれた 場所。

昭和も終わり間近になった頃、目黒川の改修工事に伴い目黒雅叙園は大改築を余儀なくされます。この見取図は、その直前の目黒雅叙園の姿です。



6 花魁通り



7 長廊下



8 天竜の間

軍艦通り

海軍さん御用達

戦前、目黒には海軍関連施設があったため、軍人も多く来園。そのため当時の建物には軍艦の名前が付いた部屋があり、その部屋に面した廊下は「軍艦通り」と名付けられていました。



9 長門の間

百段階段が
結ぶ、六つの間



静水の間

小部屋ながら立派な格天井が際立つこの部屋は、橋本静水の名が付いていますが、戦後に再構成され天井や欄間には池上秀敏などの絵が。そのため「秀敏の間」と呼ばれた時期もありました。



星光の間

四分割された天井に四季の籠花、欄間には四季の草木と食べ物。いずれも板倉星光の作品。本間の床柱は北山杉の天然絞り丸太という珍物。



清方の間

雅叙園を代表する画家・鎗木清方が手がけた部屋。「昔の下目黒名所風景」「目黒不動尊境内」など目黒ゆかりのモチーフが描かれています。



十畝の間

世界各国で日本美術展を開催した荒木十畝による、黒を基調とした花鳥画に囲まれた部屋。床の間の左の柱は直径45cmのイチイの木、右の柱は木肌の油脂光沢が美しい貴重な南米材パオ・ブラジル。



漁樵の間

床柱の彫刻のモチーフは中国の故事「漁樵問答」。ここから部屋の名が付けられました。この柱は樹齢280～300年ほど。床の間をはじめ壁一面に並ぶ美人画、天井の四季草花図そして天井や長押の金色が圧巻。



草丘の間

川合玉堂に師事した磯部草丘による四季山水図や花鳥図が、頭上いっぱい展開。床柱はエンジュの木。延寿とも書き、めでたい木と言われます。西側の障子を開けると以前は遠く富士山が見えました。

目黒雅叙園の景色

現在の雅叙園の、象徴的な景色といえる「百段階段」と、そこから続く六つの間。

百段階段



螺鈿細工に囲まれた豪華なエレベーターでフロアを上り数メートル進むと、空気が一変。ここから先の空間は、昭和のまま。見上げれば長い階段がうねりながら天へと続く、これこそが目黒雅叙園の歴史を最も雄弁に物語る百段階段です。ところでこの階段、実は99段しかありません。諸説あるようですが中国では「百」は完璧な数字で王様を意味していると言われています。一つ減らしたのは「謙虚さ」の表れでしょうか。



従業員との記念写真。
中央やや左側に細川力蔵がいる。



創業者 細川力蔵の思いは？

「目黒の不動様の居まはりだけは、不思議に昔ながらの俤(おもかげ)をとどめている」

これは日本画家・鎗木清方が昭和8年に書き残した言葉。江戸時代から郊外の行楽地として賑わった目黒川沿いは、昭和の初め頃まで江戸の風情を残していたようです。

そんな目黒に「竜宮城」を出現させたのは、不動産業などを営んでいた細川力蔵という人物。力蔵は1889年(明治22年)に石川県で生まれ、若くして東京に出、銭湯に勤めたりしながら、不動産業に進出していったようです。昭和3年、芝浦の自宅を改築して料亭「芝浦雅叙園」を開店した後、目黒の広大な土地を手に入れ、昭和6年「目黒雅叙園」として北京料理と日本料理の営業を開始しました。

その頃、料亭という場所は一部の金持ちや特権階級に限られていました。これを、一般庶民が気軽に利用できるようにしたい。それが細川力蔵の思いでした。

建物内は著名画家たちによる贅を尽くした美術品で埋め尽くされましたが、それらの作品のモチーフは、誰も

が理解できる題材ばかり。ここで一日過ごした人が、帰った後でみやげ話をする時「絵にも描けない美しさ」と言うより「こんな絵やこんな絵があった!」と具体的に話せるほうが盛り上がるだろう。そんな思いもあったのかもしれない。

また、メニューに細かく価格を明記する、5人以上まとまれば市内のどこでもタクシーで迎えに行くなど、当時としては画期的なサービスを実施。さらに、食事と一緒に風呂で寛いでもらおうと浴場をつくったり、披露宴会場として利用する人が多いなら園内で式も挙げられたら便利だろうと神殿を設けたり、大勢で囲むテーブルから料理を取り分けやすいように回転テーブルを考案したり……独自のアイデアで訪れる庶民に至れり尽くせりのサービスを次々提供しながら、拡張を繰り返しました。

また、力蔵は朝礼で「心のこもったおもてなし」を繰り返し教え、茶道や活け花のお稽古事も従業員に習わせました。この噂を聞き花嫁修業のために就職する女性も多かったそうです。力蔵の人となりがかうかえます。

目黒雅叙園その歴史

目黒雅叙園年表

- 昭和3年 (1928)** 細川力蔵が芝浦の自宅を改築し料亭「芝浦雅叙園」開店。
- 昭和6年 (1931)** 日本郵船の専務取締役であった岩永省一の私邸(設計:ジョサイア・コンドル)を購入、ここを中心に目黒雅叙園建設第一期工事開始。11月18日「目黒雅叙園」の名のもとに北京料理 & 日本料理の営業スタート。
- 昭和8年 (1933)** 浴場施設「百人風呂」が造られる。
- 昭和13年 (1938)** 結婚式の一環システム導入。
- 昭和19年 (1944)** 政令により飲食業の営業を一時停止、5月から休業。
- 昭和20年 (1945)** 東京大空襲(5月25日)により本館と二号館に焼夷弾が直撃。
- 昭和22年 (1947)** 施設の一部を旅館客室に改造し日本旅館部として営業開始。
- 昭和24年 (1949)** 1月、旧4・5・6号館を全面改装し雅叙園観光ホテルの名称で営業再開。5月、婚礼の受付と北京料理と日本料理の営業を再開。
- 昭和47年 (1972)** 新館クリスタルパレスオープン。
- 昭和55年 (1980)** グリーンパレスオープン。総合結婚式場として拡充。
- 昭和63年 (1988)** 目黒川改修工事に伴い、目黒雅叙園は建て替えのため休業。
- 平成3年 (1991)** 建て替え工事が終わり、コミュニティスペースとして11月リニューアルオープン。
- 平成14年 (2002)** 運営会社であった雅秀エンタプライズは経営破綻しその後資産ともども外資が買収。
- 平成17年 (2005)** 運営会社として再建された(株)目黒雅叙園はワタベウエディング(株)の100%子会社となり、現在に至る。

昭和6年ごろ 目指せ、東京オリンピック？

明治～大正～昭和と、日本は西洋文化を積極的に取り入れようとしていた時代。そんな中、目黒雅叙園はあえて和風建築でつくられました。一説には、昭和15年に予定されながら戦争により実現しなかった「幻の東京オリンピック」での外国人観光客を意識していたのでは……とも。

昭和8～18年ごろ 工事中の雅叙園に行けば…

開園以来、戦争が激化するまで逐次拡張工事が続けられていた目黒雅叙園。ちょうど時代は世界恐慌だった中で、職に困った人々の間で「雅叙園に行けば何か仕事にありつける」との噂も広まったとか。

昭和14年11月3日 婚礼大忙し！

目黒雅叙園でのこの日の挙式件数は116件。当時一日でこの件数の挙式を行える施設は日本にはなかったそうです。

昭和19年～20年ごろ 入院中の軍人さんが活躍！

戦時中、目黒雅叙園は政府の要請により建物を海軍医学校に貸与し、海軍病院の分院として転用されました。そして東京大空襲の際、焼夷弾が直撃。しかし、入院患者の軍人たちの懸命の消火活動によって、被害は最小限に食い止められました。

昭和30年代後半 ブライダルフェアって何？

今となっては当たり前のように行われているブライダルフェアですが、挙式前のお客様を一堂に集めて、料理や引き出物、衣装などをお見せし、模擬挙式なども行う現在のシステムは目黒雅叙園が作りだしたものだそうです。